

TOPICS

第一回 香川大学フォトコンテスト 2019

香川大学の魅力を広く発信することを目的として、Instagram を利用したフォトコンテストを実施しました。(応募期間：令和元年 10/10～12/27) 226 点の応募作品の中から、学長賞 1 点、広報室長賞 1 点、アイデア賞 2 点、特別賞 2 点が決定。授賞式を 3 月 11 日に行い、学長より賞状と賞品が授与されました。また、応募いただいた全ての作品を、幸町北キャンパス噴水前のデジタルサイネージで紹介しています。



左から
納田さん、西原さん、学長、井上さん、久米井さん、ロン留学生センター長

学長賞

小学校教員
納田 健太

こんなに栄えある賞にお選びいただけるなんて未だに信じられません。教師という職業柄、物事の背景や内面を感じ取ることを大切にしています。写真は、瞬間を切り取るものですが、「内なる世界」を伝えることができると考えています。この日は、香川大学創立 70 周年記念行事。初任校でお世話になった大先輩や教師を志すきっかけとなった恩師、立派に成長した教え子と再会する中で、ふと目にとまった瞬間でした。地域とともに歩んできた大学のこれまでの歴史が受け継がれ、これからも地域とともに発展していくことを感じました。



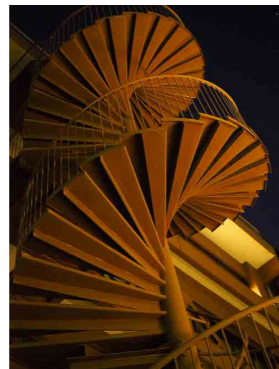
広報室長賞
経済学部 3 年
西原 歩祐翔



アイデア賞
留学生センター長
ロン・リム



特別賞
経済学部 2 年
久米井 梓



アイデア賞
教育学部 3 年
井上 陸



特別賞
教育学部 4 年
吉長 洸大



KADAIGEST 2020 3



香川大学
農学部長
深井 誠一
fukai seiichi

かけがえのない大学生生活、 自らの感性を信じ、思い切り生きよう

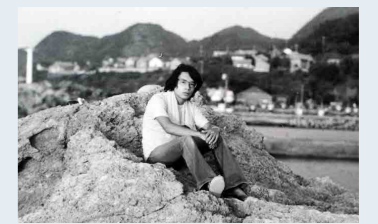
大学にとって春は不思議な季節です。卒業式が終わると、2年間濃密に付き合ってきた研究室の学生が「お世話になりました」とあっけなく去って行き、その寂しさに浸っている間も無く、翌週にはたくさんの新入生を迎え入れます。卒業生にいつも言うのです「君達はいいいよな、行くところがあって。ボクはここでまた同じことを繰り返すんだよ、まるで上りの手前で振り出しに戻る双六のようだ」と。このように大学は新陳代謝を繰り返す有機体で、学生はそこに取り込まれ形を変えて出て行き、私たち教職員はその有機体を構成するセルのようです。

45年前、私もこの得体の知れない有機体に飛び込みました。時に陰鬱で古臭い金沢という街に育った私は、雪の降らない街に住みたいという単純な理由で故郷

を離れ、小さい時からのめり込んでいたサポテン栽培の延長として農学部に進みました。農学部で学ぶ専門の講義は、それはそれは楽しいものでした。次々と出てくる植物に関する専門用語、例えば光発芽種子、自家不和合性、接木不親和性などは、子供の時に小さなフレームでサポテンを栽培していた中で体験して来た現象そのものでした。不思議だなと思っていたことが説明されて行く痛快さは、ただの植物好きの少年を植物相手の仕事人へと強く方向づけました。

一方親元を離れた下宿生活では、社会への関心が大きく展開しました。高校生の時に見た部落問題の新聞記事が心の隅に引っかかっていた。1970年代は学生運動が急速に衰退していった時期でしたが、部落解放運動もまた大きく動揺した時期でした。過度の権利主張による逆差別や暴力事件が起き、全国組織も分裂

し、学生サークルもこうした波に揉まれることになりました。毎週地域活動に参加しながら社会と政治の構造、矛盾などを熱く議論する輪の中に居ました。今にして思えば、これが私の大学でのサブメジャーだったのかもしれませんが。その後大学院へ進学し、9年間の地方公務員を経て、今の大学教員の私が居ます。学生時代の経験は必ずあなたの将来の糧になります。自らの感性を信じ、充実した大学生生活を送って下さい。



瀬戸内の島にて。このとき見つめていた未来は既に過去の物となりましたが、この時代がなければ今の自分はありません。

第13回 わくわくコンサート—ハプスブルク宮廷と音楽—



コンサートIIの最後に「皇帝円舞曲」を演奏。オーケストラは県内外のプロの奏者や教員、医学部管弦楽団、吹奏楽団、音楽専攻の学生、香川大学のOB・OGをはじめとする奏者で編成しています。



今井亮
副実行委員長
教育学部4年



原百合子
副実行委員長
教育学部4年



実行委員会メンバー



向井琴咲
実行委員長
教育学部4年

全体統括 本番前の挨拶は、全員が集まる最後の機会です。準備での苦労に感謝を述べるとともに、直前の情報共有や、お客様も含めて全員が安全にイベントを終了できるようにお願いしました。

実行委員長として組織をまとめるのは初めてで、先輩方のように全体をうまくまとめることができるのか不安でした。しかし、たくさんの子もたちがわくわくしている様子や満足して帰っていく姿を見て、「わくわくコンサート」が目指す姿に少し近づけたのではないかと幸せな気持ちになりました。この経験を通して、情報の共有や計画的に活動することや臨機応変な対応力の大切さなど、日頃の大学生活では得ることのできない学びを得ることができました。準備期間を通して本部の仲間や先生方に支えられたことに心から感謝しています。

実行委員会は40名近い仲間がともに活動しました。それだけでなく、準備を手助けくださった皆様や多くのボランティアに支えられてこのコンサートが開催できたのだと実感します。「温かいコンサートをこれからも継続してください」とお声がけいただいたことを糧に、この活動を後輩たちに引き継いでいきたいと思っています。

今回のテーマは「ハプスブルク宮廷と音楽」です。テーマ地域をEU、テーマ・アルファベットを「H」として、プログラム構成やイベントの準備に取り組みました。ハプスブルク家は800年にわたって世界の政治はもちろん文化・芸術にも大きな影響を与えたヨーロッパの名門です。様々なエピソードにあふれ、知れば知るほどおもしろくなるテーマでもあります。実行委員会では、様々な工夫を出し合いながら一年間を通して準備を進めました。



オープニングコンサート / 競技ダンス部 (中田大成・岡田夏美) によるウィンナ・ワルツとピアノ連弾による「美しく青きドナウ」。イベント統括の原も、ピアノを演奏 (ピアノ左から2番目)。



コンサートIではハプスブルク家と関わりのある作曲家ヴィヴァルディの「ラ・フォルリア」を演奏。



「H」のつく楽器、ハープによる演奏。ハプスブルク家のお姫様、マリー・アントワネットが作曲した作品を演奏。



恒例イベントとなった楽器体験には行列ができ、なかでも三村さんの演奏の影響を受けてかトランペットは大人気でした。



イベント「音遊び」/ 児童文化研究会の学生が歌いながら体を動かして、子どもたちに楽しんでもらいました。



EU展示 / 子どもたちがEUにちなんだイラストの塗り絵をしました。



開場直後、受付ではプログラムを配布。いきいきとイベントやホールに向かう子どもたちの姿が印象的でした。



企画・運営に携わったボランティアと一緒に記念撮影。ボランティアには市民の方や高校生、企業の方、全学部の学生、OB・OG、教職員が集まり、コンサートの成功に向けて力を合わせました。

舞台統括 多くの方と連絡を取り、舞台を円滑に進行させることもステージマネージャーの役割です。本番は一発勝負なので、直接お客様の前に立たない裏方の仕事も重要で緊張の連続でした。

ハプスブルク家と音楽家たちのつながりがわかる表や曲目紹介シートを作成し、ご来場の皆様に演奏作品をお楽しみいただくために、試行錯誤を重ね工夫を凝らして準備を行いました。当日は舞台運営を担当し、舞台のスムーズな進行に努めました。何度も修正してできたあがったセッティング表や進行表をもとに、連絡を取り合いながら舞台を進行。演奏では間近で聴いた三村さんのトランペットに、時間が止まるかと思うほど感激しました。上演中には想定外の出来事も起こり、咄嗟の対応に苦慮して焦ってしまう場面もありましたが、仲間たちに支えられ、無事にコンサートを終えることができました。協力し合うことの大きさを改めて実感しました。



ハイライトトランペット協奏曲のソリスト、三村梨紗さん

イベント統括 すべてのイベント担当者や連絡を取りながら準備を進めました。当日も全体の様子を見ながら、時には自分もサポートに加わるなど、広い視野と臨機応変な対応が求められました。

ヨーロッパの雰囲気を感じてもらえるよう、アイデアを出し合ってイベントの準備を進めました。恒例となったイベントに「顔出しパネル」など新しい企画も加え、どのイベントでも多くの子どもたちのきらきらした笑顔を見ることができたのは大きな喜びです。イベント統括者として私が特に意識したのは、後輩への引き継ぎです。一人ひとりが個性を活かして活躍できる仕事を割り振りました。また私はオープニング・コンサートでピアノも演奏しました。一緒に演じるダンサーとは綿密な打ち合わせを行い、本番は楽しんで演奏することができました。イベント責任者と演奏の両立は大変でしたが、その分得られたものも大きかったと実感します。後輩たちにも、このコンサートを通して成長してほしいと願っています。

イベントの「顔出しパネル」は河西紀亮さん(教育学部美術専攻)が制作



from International Office

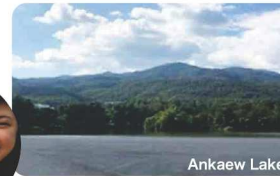


ちきゅう見聞録



タイ・チェンマイ

経済学部 福嶋 藍
2019年8月から12月までEXPLOREプログラムでタイ・チェンマイ大学に留学



経済学部で国際経済について学びました。大学の敷地内にはAnkaew Lakeという湖があり、いつでも訪れることができます。いつも学生がいっぱいで、私も勉強に疲れた時や、リフレッシュしたい時に気分転換のためによく訪れました。



チェンマイはアートの街と呼ばれており、美術館やアートギャラリーが街のいたるところにあります。タイの美術と聞くとカラフルな像のイメージが強かったのですが、日本の水墨画のような作品もあり興味深いものでした。



タイ全土で11月の満月の日に行われるコムローイ・ロイクラトンフェスティバル。チェンマイは特に有名でたくさんの方がランタン(コムローイ)を打ち上げ、街中の夜空がオレンジ色に包まれていました。

read more

